

**(金沢市在住の知的障害者の父親の立場より)**

私の娘は高校3年生の知的障害者です。元日の発災後すぐに仕事に行く必要があつて、娘は妻に任せました。金沢でもすごく揺れて、娘と妻は家の1階の居間で大きな揺れにあい、家に被害はなかったものの娘は怖くて居間の中に一週間以上入れなかった。娘の希望で、妻が車で娘と街中をまわって気持ちを落ち着かせていた。金沢で街中にある森本・富樫断層帯が揺れた場合の被害も想定されているので、自分の家の対策をどうしたものかなと思っています。

答えはすぐには出せませんが、発災1日目、2日目を自分たちだけでどうしのぐのか、2週間、3週間、1カ月、そこまでどうやって乗り切るのかが課題なのかなと。川崎さんが避難所の畳の部屋に車いすでは入れなかったことに対して、DMATが来て工夫をして入れるようになった話は、これからの対策のヒントだと思いました。皆さんが経験したこれがあつたらうまくいったということを集めることができれば、何が必要かなということが今後の対策して形として見えてくるのじゃないかと思いました。

どこの組織もそうですが県外から多くの支援してくれる団体が来ましたが、地元の自治体の職員やいろんな団体のスタッフ、職員が被災したので、今回の個別支援計画も地元の自治体が被災してパソコンのデータをすぐ出せなかったという話が出ましたが、大切な情報はパソコン以外でもバックアップすることも考え、それを県外から来た支援団体にすぐに渡せる工夫はしておいたらいいのかなと。皆さんが経験したことを記録し対策を考えておくこと。県外からの支援団体に引き継ぐ方法も考えていくことなんだろうなと思います。